



手話サークル研究班



～ 「手話」は聴覚障害者にとって大切な言葉です ～

～ 「手話サークル研究班」の思い ～

メディアや地域で開催されている手話講習会の影響で手話に興味を持つ人たちが増え、「手話」に対する理解は確実に広がってきました。

でも、「手話」への理解が広がることと、「聴覚障害者」への理解が広がることは、イコールではありません。

手話に関われる時間、年齢等々、さまざまな条件の人たちが集うサークルでは、当然手話技術レベルはまちまちだと思いますが、そこにこだわる前に「手話」を健聴者の自己満足な趣味に終わらせることなく、学んだ手話を通して「聴覚障害者と共に歩む」ということが大切だと思います。

「手話サークル」の役割は、学んだ手話を通し、ろう者と交流しながら「手話」と共に「聴覚障害者」に対する理解を深め、聴覚障害者と地域をつないでいく「手話に学ぶ場所」だと考えます。

～ 「手話サークル研究班」のプロフィール ～

☆2004年4月、9名のメンバーで発足。

☆神通研集会・分科会「手話サークル」の運営を担当。

☆その他、神通研・関東通研・全通研の行事、集会に参加。

☆2010年9月現在、川崎2、横浜5、県域10 計17名で活動中!!

～ '10 神通研集会報告② ～

◎「応急避難所寒冷期宿泊体験」報告

1、聴こえない方からの報告

- ・当日の流れやルールの説明などに手話がなく、わからなかったがそばにいた人が途中で気づき、配布された資料を指差しで教えてくれた。
- ・情報の伝え方として、声出し、手話禁止で「伝言ゲーム」を行った。
- ・新聞紙でスリッパ作り。避難所になる体育館は床が冷たい。手に入りやすい新聞紙で簡単にスリッパができる。
- ・食事を配布するときは、長く並ぶのではなく、10人くらいずつ並ぶ。5人いなくなると次の5人が・・・という感じ。
- ・来年度も参加してみたい。

2、サークル会員からの報告

- ・子どもから高齢者、障害者、外国人等様々な人たちが参加。文化・生活様式の違いについて相互理解を広げられた。
- ・聴覚者が一晩中補聴器を外せず辛かったことなどに気づかされた。
- ・日頃から地域の人たちとの関係作りが大切だと感じた。

～ 定例会 8/29 (日) ～

まずは神通研集会の反省。各地の貴重な報告や情報は得られましたが、意見交換の時間は足りませんでした。来年度どのような工夫が必要かが課題です。

次に全通研集会・埼玉参加者報告。他県の方たちとの交流もでき、パワーに圧倒されながらも有意義な時間を過ごすことができました。

そして、11月の関東通研集会の「討議の柱」について話し合いました。今年も「災害」と「サークル」についての情報交換を行う予定です。今年は茨城で開催されます。

【次回定例会】'10/9/20 (月・祝)

13:10～15:00 県民サポートセンター 704

～サークル研究班メンバーのささやき～

今年の夏は「暑い!!」の連発ですね!?夜も寝苦しく!いつになったら涼しくなるのやら...??

自然の中でゆっくりしたら涼しいかと青森に行ってきましたが...今年はやはり暑い!とのこと(泣)でも、さすがに奥入瀬渓谷は少し涼しくホッとできました。

ところで、もう9月で夏休みも終わり。暑さボケしていても「暑い!」の手話は皆さん上手にできますよね(苦笑)

<Anko>